

2022年度事業計画

「Change & Challenge」第2章

“Be Precious ! Be Prestigious !” Vol. 4

2022年3月22日

学校法人森ノ宮医療学園

<第2期中期経営計画の概要>

【基本目標（2023年度末までに実現したい姿）】
「人口減少社会に勝ち残るブランドカ
（第1期中計目標“関西圏トップクラス”⇒）“**関西圏トップ**”の実現」

【目標指標】
①各学科国家試験合格率、対入学者年限卒業率、
就職率いずれも関西圏トップ
②各校収容定員充足率100%以上
③借入返済後キャッシュフロー黒字化
④働きがい度80%以上

【テーマ】Change&Challenge第Ⅱ章
“Be Precious！ Be Prestigious！”

【目標達成のために解決しなければならない課題】
①新規事業の完成・成功
②既存事業の再生・安定
③上流（入口）・下流（出口）ネットワークの強化
④“森ノ宮ブランド”の確立・認知獲得
⑤「個の力」と「組織の力」の有機的強化



▶Be Precious! Be Prestigious! のための12の中核プロジェクト

▶各部署中期計画

■12の中核プロジェクト

- ① 森ノ宮式「チーム医療教育」確立プロジェクト
- ② 「研究の森」づくりプロジェクト
- ③ 財務基盤安定化プロジェクト
- ④ 「森ノ宮オリジナルづくり」プロジェクト
- ⑤ 「Smart'M」プロジェクト
- ⑥ 未来投資プロジェクト
- ⑦ 「時代に対応した柔軟な学部・学科展開」プロジェクト
- ⑧ 「グローバル'M」プロジェクト
- ⑨ 卒業生支援強化プロジェクト
- ⑩ 入試改革プロジェクト
- ⑪ 学生支援強化プロジェクト
- ⑫ FSD強化プロジェクト

I.事業方針・主要事業

1. 事業方針

【学園全体】

- 新型コロナによる社会経済環境の変化に迅速・柔軟に対応しつつ、「関西圏トップ」の実現をより確実・強固にするために、大学・専門学校・WLSの各校を核としたSBU（Strategic Business Unit：戦略事業単位）の競争力強化施策を積極的に推進していく

【大学ユニット】

- 量的拡大から質的進化への転換を意識したブランディング構築を推進し、社会的認知度向上を図る。
- 魅力的な教育プログラムと高い国家試験合格率・積極的な研究推進と発信・医療系大学にふさわしい地域/社会貢献の実践により、包括的な競争力強化に取り組む。
- 社会状況・外部環境に適切に対応した施策を教職連携のもと確実に遂行する。
- 学部・学科ごとの部署別収支を意識した教学部門運営を目指す。

【専門学校ユニット】

- 第2期中期計画中（2023年度末まで）に期末在校生数500人確保の達成、国家試験合格率100%を達成するために教育力強化・競争力強化を専門学校全体として取り組む。
- 専門学校の特色を活かした教育内容の充実を進める。
- アフターコロナを見据えた教育方法の充実を進める。
- 徹底した経費削減に取り組む。

【WLS ユニット】

- 不法残留率 3%以下
- 関西 No.1 の介護福祉士国家試験合格率
- 日本語、介護福祉士養成の一貫教育の確立
- 留学生の奨学金を出してもらえる施設の確保
- 介護福祉士教育による在留資格（介護）、特定技能、技能実習が連携したスキーム確立

によって、ユニットとしての収益黒字化とともに、社会に求められる魅力的な教育プログラムの提供と関連事業の展開を進める。

2. 各ユニットの主要事業

【大学ユニット】

- 新校舎建築等、2024 年度の ST 学科開設を目指した準備を進める。
- 学部再編（看護学部・総合リハビリテーション学部・医療技術学部）のアドバンテージを追求し、学部単位での教育/研究の質向上を目指した施策を模索し、学部単位での広報戦略を展開する。
- チーム医療教育プログラムの見直し・ブラッシュアップを継続し、学生満足度向上と受験生への訴求を目指す。特に学部再編を意識し、学部内 IPW アドバンスコース設定・学部横断型チーム医療教育プログラムの構築等、魅力的な教育プログラムを実現させる。
- 大学院保健医療学研究科看護学専攻(修士課程)に新設した NP コースを順調に稼働させる。
- 2022 年度秋を目指して大学附属クリニック開設の準備を実施する。医療系大学として積極的な地域貢献を基盤とし、教育/研究のフィールドとしても最大限活用する。また、健康管理センターと連携させ、学生の健康管理を一元化・効率化するシステムを構築するとともに、教職員福利厚生への寄与を目指す。
- 新たに入試専門部会を組織し、入試広報センター(旧アドミッションセンター)に加え、入試運営センターを配置する。入試戦略の継続的見直し・構築と入試問題の質向上を目指す。

- 教育の質担保に向け導入した外部システムを有効活用し、入学前教育・入学後学修到達度評価・国家試験合格までの全てを連動させた効果的なフローを構築する。
- インクルーシブ医科学研究所を主体として、健康長寿を大テーマとした研究群を推進し、科研費獲得数・論文数を指標として、関西圏トップの研究力を目指す。

【専門学校ユニット】

- 教育力の強化のために実施したカリキュラム内容をさらにブラッシュアップする。
- 教授方法の見直し・新たな教授方法の開発などの取組を実施する。
- 「臨床の森ノ宮」を実践するために、教員の臨床力の向上、臨床を見据えた教育内容の充実を図っていく。
- 50年近い歴史を踏まえつつ、前例にとられない業務内容のブラッシュアップを実践する。
- 専門学校全体として「選ばれる学校」となるために部署を横断し学生教育への還元を実施する。

【WLS ユニット】

- 入学前教育やマナー教育の充実による学生の基礎力向上
- 研修の強化等による教員力の向
- 日本語学科収容定員 50 名増に対する受け入れ体制の構築上
- 介護福祉学科夜間部の設置と日本語学習 1 年間からの進学スキームの確立
- 出資法人も含めた営業体制の強化

【マネジメント・ユニット（法人本部）】

- 2023 年度の現中期計画後も視野に、「関西圏トップ」をより確実にするための大型投資計画（「新投資計画」および「新資金調達計画」）をスタートさせる。

- 学園の諸事業を大学・専門学校・WLSの「ビジネス・ユニット」と法人本部を中心とする「マネジメント・ユニット」に整理集約し、それぞれのユニット内で構成部署単位の発生主義・CF主義型の管理会計制度を整備する。

「新投資計画」の概要

番号	件名	内容	目的
①	日本コムシス森ノ宮ビル土地建物購入	解体後専門学校屋外実習スペース	【「関西圏トップ」の実現・維持をより確実にするために各ビジネス・ユニットの競争力・持続力を強化する】 1. 大学ユニット：言語聴覚学科および附属クリニックを設置することで「チーム医療教育」やキャンパス環境の競争力を一段と強化し、「関西圏トップ」をより確実にする。 2. 専門学校ユニット：本校舎の耐震工事に必要な一時移転にも利用できるスペースを確保する事で、事業の持続性と拡張性を強化する。 3. WLSユニット：出資法人等も含めた独自の「フルセット型」ビジネスモデルを拡大する事で、学園としての「第3の柱」を育てる。
②	同解体、整地	同上	
③	大学西棟改修	附属クリニック設置（緑橋から移転）	
④	緑橋ビル改修	附属クリニック設置（上記）後改修	
⑤	大学新学科用新棟建設＋東棟改修等	言語聴覚学科用新棟＋機器備品、東棟老朽対策等	
⑥	WLS 2	WLSの横展開を検討	
総事業費		上記合計	

3. 第2次中期計画中核プロジェクト

プロジェクト名	2022年度方針
森ノ宮式チーム医療教育”MAC” 確立プロジェクト	2020年度にブラッシュアップしたIPEプログラムを継続して実施する。低学年からの意識づけ/動機付けに有用であり本学のチーム医療教育をアピールできる病院見学実習は、コロナ禍のため2020年度・2021年度は実施できず。2022年度は協力病院との連携を強化しつつ実施を模索すると同時に、それら病院と協働したIPE動画コンテンツを充実させ、受験生・在学生への本学魅力の訴求力に繋げる。2022年度には、さらに魅力的・独創的なIPEを確立すべく、①学部再編に伴う、学部内での学科横断的取り組み、②チーム医療教育のさらなるquality upに寄与する新学科設置、③IPEを体現する施設設置等を検討する。本学チーム医療教育に対する受験生・在学生の期待・評価は高く、IPEの質的向上により医療系大学としてのブランディング構築へ繋げる。
「研究の森」づくりプロジェクト	2020年度に設置した「インクルーシブ医科学研究所」を中心として、2022年度も継続的に研究力の向上を図る。同研究所における時間と経験の効率的配分を基盤とし、2022年度は①学内競争的研究費の新たな設置・②新設クリニックとの連携・③成果発信方法の工夫（学外へのタイムリーかつ魅力的な発信方法の確立：HP・動画媒体等）による教職員の意識向上など、研究推進方法をさらにバージョンアップし、査読付き論文年間10本・獲得科研費年間20課題（医療系大学としては関西圏研究力トップの畿央大学レベル）を達成目標とする。各専門領域の特徴を生かした研究を展開しながらも大学全体として1方向を向いた全体像を構築する取り組みを、在学生・保護者・受験生・地域・医療業界に積極的にアピールし、ブランディング構築に繋げる。
財務基盤安定化プロジェクト	学園の諸事業を大学・専門学校・WLSの「ビジネス・ユニット」と法人本部を中心とする「マネジメント・ユニット」に整理集約し、それぞれのユニット内で、構成部署単位の発生主義・CF主義型の管理会計制度を整備する。その分析を通して、ユニットごとの損益分岐管理基準等を設定するとともに、具体的な改善・管理手法の検討を進める。
「森ノ宮オリジナルづくり」プロジェクト	引き続き、部署中期計画シートで、それぞれの独自性確立に向けた取り組みや成果をフォローしていくとともに、インセンティブ強化や学園内での認知・共有を進める。
「Smart'M」プロジェクト	2021年度に引き続き、外部リソースを活用した研究開発支援の仕組みづくり等の企画・提案活動を行う。
未来投資プロジェクト	引き続き、大阪関西万博の動向等も踏まえながら、出資法人の活用も含めて、経営資源の垂直・水平展開策を模索する。
「時代に対応した柔軟な学部・学科展開」プロジェクト	「チーム医療」の充実、総合リハビリテーション学部の充実のため、2024年4月言語聴覚学科の設置を目指す。また、それに伴い新校舎を設立し、新校舎での、総合リハビリテーション学部内の連携を図る。また、将来の市場環境・内外資源を鑑み、医療系総合大学としての今後の学部・学科展開を検討する。
「グローバル'M」プロジェクト	①「グローバルM」プロジェクト 新型コロナウイルス感染症が落ち着けば、留学の短期プログラムを再開する。オーストラリアへの留学を検討するものの、各学科の状況に応じて留学先を決定する。また、感染症対策を加えた危機管理マニュアルを策定する。WLSとの交流は、WLS学生の大学部活動への参加以外にも、何ができるか、大学国際交流センターとWLS事務課の間で検討する。 ②「ローカルM」プロジェクト 地域に根づく大学として取り組む様々な地域貢献事業を継続する。地域連携事業を一元的に集約するフローを稼働させ、魅力的・効率的な外部発信を行う。新型コロナウイルス感染状況を踏まえ感染予防対策に留意しつつ、太陽の町で実施している「もりもり町の保健室」については継続し、同地域の高齢者との関わりをさらに深め充実させた取り組みとして、見守りや御用聞き等にも取り組む。また、地域貢献の柱として、22年度附属クリニックを開院する。

卒業生支援強化プロジェクト	<p>①2022年度も職業実践力育成プログラム（BP）「運動器理学療法アップデート講座」を継続するとともに、あらたにBPを利用した「臨床工学周術期アップデート講座」を開設・運営する。</p> <p>②キャリアアップの支援のため各種セミナーの開催や「森ノ宮医療大学学術大会」を継続し、さらなる充実を目指す。</p> <p>③2022年度より大学院保健医療学研究科看護学専攻に、博士後期課程を設置し、看護研究者志望や教員志望の卒業生への大学院教育の体制を充実させる。</p> <p>④2022年度から大学院保健医療学研究科看護学専攻（博士前期課程）にNP（Nurse Practitioner）コースを開設し、特定行為研修も含めた高度実践看護師を育成する。</p> <p>⑤「森ノ宮適塾」の開催を継続し、臨床における知識・技術の向上を図り、優秀な医療者を育成する。</p>
入試改革プロジェクト	<p>【大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験者の分析を行い、令和6年度入試において、上位層が受験しやすい入試日程、入試制度を検討、提案するとともに、2020年度より参入した大学入学共通テストにおける受験者数の増加を目指す。 ・入試問題作成における作問の手順、外部校正フローの変更などを行うことにより、問題ミスが発生しない体制を構築する。 ・入試運営において、ミスのない運営を行う体制を構築するため、採点時のダブルチェック項目を増やすなど入試運営マニュアルの見直し、業務フローの理解の浸透を図る。 ・事前に学科内で受験生情報を検証することを目的とし、面接試験における検証材料である入学志望動機書や調査書などのWEB化を検討し、より優れた学生の確保を目指す。 ・高等学校進路指導研究会からの要望を精査し、ミスなく確実に実現できる案件を検討、提案する。 ・競合校の入試問題や大学共通テストの出題を分析し、本学の出題方針や出題内容を検証し、改良を進める。 <p>【専門学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の学費等優遇制度を見直し、新たな優遇制度案を提案する。
学生支援強化プロジェクト	<p>昨年から運用を開始している左記の取り組みに加え、4年間の学生生活が総括可能なポートフォリオの導入を検討する。これに先立ち、低学年時からの学修・キャリア支援体制の構築を目指す。</p>
FSD強化プロジェクト	<p>「質保証」の重要性と実効性が高等教育機関の中で強く叫ばれている中で、特に講義・演習・実習を中核とする授業そのものの「質向上」の施策実施とともに質保証の実効性が急務と考えられる。この「質保証」の中核をなす「教育の質」の保証と向上のためには、授業内容の質、研究成果の質、教育成果の質、制度・仕組みの質、学生の成長結果の質、施設設備の質等多くの項目が想定されるが、その質保証・向上施策を実際に実施する教員職員の業務の実態や成果も質の向上が早急に求められている。</p> <p>2022年度は、2021年度に引き続き日本高等教育評価機構による本学の評価結果を踏まえ、「質保証」に関連して、教育のアウトカムあるいは教育成果自体の日常的かつ恒常的な質的向上とその不断の継続を強く推進・実施していくことを方針とする。</p> <p>また、IR活動の推進による情報分析の強化、アセスメントチェックの実施、分析、改善による大学全体の質保証の向上、およびFSDのスケジュール化と実効性のあるFSD活動の実施などに取り組んでいく。</p>

Ⅱ.財務方針・予算概要

1. 財務方針

- 2021 年度末からスタートした新投資計画により、2024 年度までに約 35 億円の支出が予定されることから、可能な限り支出を抑制するとともに、リースによる支出平準化を図る等により、学園としての基本方針「期末運転資金 20 億円」を維持する。
- 資産運用は引き続き見送る。

2. 予算概要

	費目	主な内容
学生生徒等納付金収入	4,014,318,000	就学支援金約1,2億含む
手数料収入	61,150,000	
寄付金収入	400,000	
補助金収入	407,000,000	
資産売却収入	0	
付随事業・収益事業収入	174,587,000	
受取利息・配当金収入	0	
雑収入	12,600,000	
長期借入金収入	100,000,000	コムシス借入差額
計	4,770,055,000	
人件費支出	2,339,945,000	西棟改修費約5億
教育研究経費支出	1,254,765,180	
管理経費支出	512,133,625	
借入金等利息支出	14,521,000	
借入金等返済支出	211,132,000	
施設関係支出	618,450,000	
設備関係支出	94,679,000	
計	5,045,625,805	

収支	-275,570,805
----	--------------

期初現預金残	2,351,886,102
--------	---------------

期末現預金残	2,076,315,297
--------	---------------

Ⅲ. 計画の管理

(1) 「成果報告会」における確認

毎年度期初に行っている部署別の「成果報告会」で、前年度の実績を確認しつつ、適宜、事業計画の追加修正を行う（2022年4月1日付組織改編はこの時点で反映する）。

(2) 4か月ごとの進捗管理

4か月ごとに部署別事業計画の進捗状況を把握するとともに、中期計画自体の見直しも含めて必要な対応を講じ、理事会に報告する。

(3) 中期財務見通しの適宜更新

月次の資金繰報告・予実管理結果を中期財務見通しに反映し、事業の進捗状況と併せて、適宜、理事会に報告する。

以上